国語科学習指導案

単元名　いにしえの心にふれる
教材名　・蓬莱の玉の枝－「竹取物語」から（光村図書）
　　・姫の物語？翁の物語？－竹取物語（学校図書　改）

1　単元について
(1) 生徒観
中学に入って初めて本格的に古典を学習する学習材として、本単元では「いろは歌／月に思う」「蓬莱の玉の枝－『竹取物語』から」「今に生きる言葉－矛盾－」（故事成語）が配してある。「竹取物語」は、絵本「かぐや姫」として幼児期から慣れ親しんできた者が多い。その一方、「竹取物語」の物語世界は童話として慣れ親しんできた「かぐや姫」の世界とは違う世界を持っており、その内容に驚きや新鮮さを感じる生徒も多いと思われる。入門期の古文教材として「竹取物語」を学ぶことは、語り物語としての古文の調子を味わわせるのに最適であるとともに、古典の持つ世界の楽しさを味わわせるのに最適であると考える。
(2) 教材観
古典を学習することの真のねらいは、音読や読書などを通じて、古典とは何かを知り、古典の世界に親しむことにある。しかし、現代の生徒たちは、日ごろ読書に親しむ機会が減ってきている。まして古典を進んで読む生徒などごく限られた者しかいない。また、古典学習の取り組む際に聞かれる生徒の言葉として、「今の言葉より難しくて理解に苦しむ」、「昔の人の考えを知っても今の役には立たない」など、否定的なものが多いことに気づかされる。しかし、そのような時期だからこそ、古典を学習する本当の意義に気づかせたい。このようなねらいから、幼少期より親しんできた「かぐや姫の話」の元本である「竹取物語」は、適切な教材であると考える。
(3) 指導観
本教材での学習活動を次の三点に的を絞り、本学習が学習者の古典学習の礎となるように考えた。
① 古文を徹底的に音読して、調子をつかむ。
② 歴史的仮名遣いと現代仮名遣い、古語と現代語訳を比較する。
③ 「竹取物語」を「読む」行為を通じて古典世界に親しむ。
特に③の「『竹取物語』を『読む』行為を通じて古典世界に親しむ。」については、これまでの古典学習に見られがちな原文と口語訳の対比による解釈中心の学習ではなく、「竹取物語」のストーリー自体を読んで現代人と平安期の人との感性の違いや同じ点を考えていくことによって、古典世界を「楽しむ」学習を通じて古典に親しむ態度を育てたい。
さらに、「学びのプラン」のプリントをもとに、その１時間に行う「活動内容」と「身につけたい力」を毎時間意識させるとともに、単元の振り返りを行う。
振り返りでは、
①言葉（古語やストーリーの内容）に着目し、よく考えることができたのは、どんなことか。
②誰（何）に刺激（興味を感じた）を受け、自分（の見方）はどのように変わったか。
③その他、友人の変容（他の学習者と振り返りを交流しての感想）など。全体的な感想。
の三つの観点を示し、言葉に着目した振り返りを行わせる。

2　単元の目標
・語句に注意しながら，現代の文章と古典の文章とで異なる部分を確かめ，古典の文章の表現の特徴を知る。（読むこと(1)ア･エ）
・仮名遣いに注意し，古典のリズムを味わいながら音読し，古典の文章に読み慣れる。
（伝国(1)ア(ｱ)）
・「竹取物語」の世界を知ることを通じて，古典の世界に触れる。（伝国(1)ア(ｲ)）

3　単元の指導計画
・第一次　古典の文章をリズムを味わいながら繰り返し音読させる。…１時間
・第二次　現代の文章と古典の文章とで異なる部分を確かめながら物語の展開を読み進めさせる。…２時間
・第三次　物語に登場する人々の思いや行動について，現代の自分たちの考えや行動と比較し，

感じたことや考えたことをグループおよび全体で交流させる。…２時間
・第四次　「学びのプラン」に、本単元の最終的な振り返りを行わせる。…１時間

４　単元の評価規準
【現行の評価の観点による評価規準】

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・物語に登場する人々の思いや行動について，現代の自分たちの考えや行動と比較し，感じたことや考えたことをまとめようとしている。	・現代の文章とは異なる表現や表記に注意して物語の展開を捉えようとしている。	・仮名遣いに注意し、古典特有のリズムを味わいながら音読している。

【新しい評価の観点による評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・仮名遣いに注意し、古典特有のリズムを味わいながら音読している。 ・現代語訳を参考にして，仮名遣いや文末の違い，現代では使われなくなった言葉に着目して読み進めている。	・現代の文章とは異なる表現や表記に注意して、物語の展開を捉えようとしている。	・物語に登場する人々の思いや行動について，現代の自分たちの考えや行動と比較し，感じたことや考えたことをまとめようとしている。

５．本時の学習計画
(1)本時の目標（第４次）
「学びのプラン」に、本単元の学習を振り返り、感性的思考・論理的思考をはたらかせて学習の経緯を書くことができる。
(2)展開

過程	学習内容・活動	指導上の留意点及び支援（○）と評価（◆）
導入	１　「学びのプラン」をもとに前時までの学習を振り返る。 ２　本時の学習活動のめあてを知らせ、学習活動を確認させる。	○これまでの学習について、生徒に自由に発言させて、確認させる。
	「竹取物語」の世界と現代世界のつながりについて、語句や表現を手がかりに、考えてみよう。	
展開	３　前時までの学習で注目した古語や表現内容をもとに考えた内容について、「学びのプラン」を手がかりに確認する。 ４　古文に描かれた表現を通じて、古典と現代とのつながりについて、次の観点で「振り返り」を行わせ、シートに書かせる。 ①「古語」の表記や意味と「現代語」の比較を通して。 ②古人の「理想」と現代人の「理想」の比較を通して。 ③古人と現代人に共通する「大切なもの」について。 ５　書き上げた、または書いている途中のシートをグループで交流し、考えを深めあう。	○これまでの学習で用いたワークシートをもとに、学習内容についてさらに具体的に振り返るように促す。 ○「振り返り」の観点については電子黒板に提示し、具体的に考えやすいように支援する。 ○記述内容に抽象的な表現があれば、具体的に記述するように促す。 ◆古語の表現や「竹取物語」に描かれた世界について、感性的思考や論理的思考をはたらかせながら読んでいる。【読む能力】 ○グループで考えを交流し、発表し合わせる。

	6　グループのメンバーの意見をもとにあらためて、シートに記入を行う。 7　書き上げた意見を、全体に向けて発表する。	◆文章を読み、筋道だった意見を持っている。【読む能力】
振り返る	8　「古典」を読むことは「現代文」を読むことと変わりがないことを確認する。	○「蓬莱の玉の枝」の登場人物を一人取りあげ、取りあげた人物の思いや行動について、自分だったらどうするか、現代でも同じ状況はないか、別シートに記入させる。